

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)		商店街（代表者）	・年末年始を迎えて、多少は景気が上向くことを期待している。
		一般小売店〔土産〕 （経営者）	・日本人客が高価な商材を購入するなど、これまであまり例のない動きがみられたことから、今後についてはやや良くなる。ただ、隣接自治体への若者の流出が多いことで、人手不足が急速に進行しており、対策が追い付かず、従業員募集に掛かる費用も増加している。小さな企業でも外国人従業員を継続的に採用できるような対策が望まれる。後継者問題については、長男が引き継いでくれると言っているが、相続税のことを考えると廃業する方が良いのではないかと毎日悩んでいる。
		百貨店（売場主任）	・客単価の上昇傾向がみられ、今後も同様の傾向が続くことが期待できる。
		百貨店（担当者）	・年末から年始にかけて、今まで停滞していた消費マインドが高まることを期待している。今年は、例年と比べても消費が低迷していることから、年末年始はその反動が生じると期待している。
		百貨店（販売促進担当）	・年末年始に市内各所でのイベント開催、有名アーティストのコンサート開催などが予定されていることから、今後については来街者が増えることになる。それに伴って、商業施設への来客数の増加が期待できるため、市内の買物動向は良くなる。
		衣料品専門店（店長）	・株価が安定しているなか、ホワイトカラー層でスーツの買換えが増えていることから、今後についてはこれまでの落ち込みの反動で景気が良くなる。
		家電量販店（店員）	・冷蔵庫は大型の物がよく売れている。テレビも大画面の4Kテレビが主流になってきており、年末商戦に期待感が出てきている。
		乗用車販売店（従業員）	・北海道の場合、11～12月は売上の厳しい時期だが、1～2月と春に向かうにつれて商戦が始まることになる。こうした動きは毎年変わらずにみられる動きであるため、2～3か月後の景気はやや良くなる。
		自動車備品販売店（店長）	・来年3月まではドライブレコーダーを中心に車用品の動きが良くなるが見込める。
		一般レストラン（スタッフ）	・以前は団体ツアーで来日する外国人観光客が多かったが、最近は個人旅行客が増えており、当店利用客の客単価を押し上げている。今後についても、海外でテロや政情不安、自然災害などが相次ぐなか、比較的安全な日本を旅行先に選ぶ外国人観光客は多いとみられ、しばらくは景気の良い状態が続く。
		旅行代理店（従業員）	・今後の外国人観光客の動向は流水の接岸時期や接岸状況に影響されるが、近年、冬期間の体験型観光やイベントが充実してきていることで、流水プラスアルファを楽しむ観光客が増えてきている。今後については、安定した天候となり、交通機関の混乱などがなければ、景気はやや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・当地は農閑期となる下期に客が動く傾向がある。今年は農産物の収穫状況が良く、前年の台風被害による自粛ムードの反動も見込めるため、今後、市場の動きが活発になることが見込める。
		タクシー運転手	・12月は年末の繁忙期であり、タクシーの利用も増えることになる。また、1～2月は降雪があることでタクシーの利用が増えるため、11月よりも売上は良くなる。
		通信会社（社員）	・繁忙期に突入するため、少しは景気が良くなることを期待している。
		美容室（経営者）	・12月と来年1月の予約状況が今までにないほど良いため、売上の増加を期待している。少なくとも来客数の増加は見込める。
		住宅販売会社（経営者）	・株価が順調に推移することで個人消費が少しでも上向いてくることを期待している。住宅については、現状、頭打ちの状況だが、低金利を背景に非住宅の建築などが順調に増えることを期待している。
	商店街（代表者）	・デフレが解消され、将来への不安が払拭されない限り、今の状況が続く。	
	商店街（代表者）	・北朝鮮問題が景気に影響するとみていたが、問題が長期化するなかでマンネリ化してきている面があるため、今後の景気は変化がないまま推移する。	

商店街（代表者）	・当市恒例の冬のイベントが行われるが、今回は中心部の会場が設定されていないため、周辺住民、郊外からの客の来街が減少することが懸念され、11月と同様に景気のやや悪い状態が続く。
商店街（代表者）	・外国人観光客について、中国、台湾の消費が落ち込んでいるものの、タイ、マレーシアが伸びていることから、全体的には今後も好調に推移する。
一般小売店〔酒〕（経営者）	・年末となる12月は、ふだんの月と比べて売上が相当増えることが見込めるが、こうした動きは例年のことであり、基調は11月とあまり変わらずに推移する。
百貨店（営業販促担当）	・買物に対する客の嗜好が変化してきている。今後については、食品、催事などは堅調に推移する一方で、衣料品、服飾雑貨はマイナストレンドが続く。
スーパー（店長）	・11月は当市内で食品スーパーの改装や新店舗の開店があり、価格競争が強まっているため、今後、食品の売上が伸びていくことは期待できない。
スーパー（店長）	・今後も客の節約志向は変わらない。12月は必需品の目的買いが増えるため、一時的に景気はやや良くなるが、年を越せば動きが落ち着くことになるため、景気は変わらない。
スーパー（店長）	・何も変化がみられないため、今後も景気は変わらない。
スーパー（店長）	・現在、当市のチェーンストアは飽和状態となっているため、今後の景気は良くなることも、悪くなることもなく推移する。
スーパー（企画担当）	・野菜やガソリンの価格上昇がみられるため、今後、年末商戦に向けて生活防衛意識が高まり、消費を冷え込ませるのではないかと懸念している。
スーパー（役員）	・年末需要のある12月は1年間で最も売上の良い月であるが、ガソリンや灯油の値上がり、青果物の価格急騰などにより、消費者の節約ムードが高まっている。鮮魚類の価格高騰の影響で歳暮商戦の出足も例年と異なってきていることから、今後、景気が上向くことは期待できない。
コンビニ（エリア担当）	・全体的には下げ止まり感があるものの、既存商材は販売量の減少が続いている。単身世帯の増加など、世帯人員が減少している影響なのか、客1人当たりの購入金額も減っており、消費が上向き気配が感じられない。
コンビニ（エリア担当）	・今後の見通しがどうなるか判断材料が全くないため、分からない。
コンビニ（エリア担当）	・賃金は増加しているものの、可処分所得が増加していないため、今後も景気は変わらない。
コンビニ（店長）	・景気が上向き要因が見当たらない。クリスマスや年末の予約商材に対する反応も前年より悪い。野菜などの価格高騰のあおりを受けているようにみえる。
衣料品専門店（店長）	・ここ数か月、来客数も買上金額も伸びていないため、今後も変わらない。
家電量販店（経営者）	・特に景気が大きく変動するような要素がないため、今後も変わらない。
乗用車販売店（経営者）	・前月と同様に、先行指数である当社の新車受注が新型車を中心に好調を維持していることから、この傾向は当面続く。
乗用車販売店（経営者）	・景気が良くなる要素が見当たらないため、今後も変わらない。
乗用車販売店（従業員）	・冬季ボーナスについて、前年並みの水準が見込まれるため、今後の消費拡大にはつながらない。
その他専門店〔造花〕（店長）	・様々な商材で値上がりが見られるなど、消費意欲を減退させる動きにあるため、今後も厳しいまま変わらない。
高級レストラン（経営者）	・とにかく原材料の値上げが止まらない。冬になり、野菜も高騰してきている。年末商戦に向けて、客の購買力は上がってくるとみられるが、それは年末年始のみで、2月以降、どの程度の落ち込みが生じるか不安である。株価が上がっても一部の投資家が儲かるだけであり、一般市民の収入が増えることが見込めないため、今のところ好景気に向かうような要素は1つも無い。
観光型ホテル（スタッフ）	・近隣施設でのコンサートイベントの動員が減少傾向にあることがマイナス要因となっているが、その反面、スポーツ大会の動員が健闘していることがプラス要因となり、トータルでは横ばいで推移する。
旅行代理店（従業員）	・賃金改善があまり進まないなかで、物価が徐々に上がっていることで、節約志向、儉約志向が強まっている。景気回復の原動力が見当たらないため、今後も景気は変わらない。

	旅行代理店（従業員）	・客に動きがみられない。極端に減っているわけではないが、増えているわけでもない。ただ、前年よりも少しずつ減ってきている雰囲気があり、売上も実際にそうなっている。このため、今後については厳しいまま変わらない。	
	タクシー運転手	・問い合わせ件数や予約件数が変わらない状況にある。前年との比較でも変わっていないことから、今後も景気は変わらない。	
	タクシー運転手	・今後も例年どおりの傾向で推移することが見込まれる。	
	通信会社（企画担当）	・客の競合相手への流出を止める決定打がないため、今後も変わらないまま推移する。	
	観光名所（職員）	・冬期間に向けて動向を注視する必要があるが、外国人観光客の来場が引き続き好調なことから、今後も変わらないまま推移する。	
	百貨店（役員）	・10月以降の流れから、現状維持で推移するという確信が今一つ持てない状況にあるため、今後についてはやや悪くなる。	
	スーパー（役員）	・前年の北海道新幹線開業効果の反動で観光客が減っているため、今後、しばらくの間は景気回復を期待できない。	
	コンビニ（エリア担当）	・人口減少が続いており、来客数の減少が見込まれるため、今後についてはやや悪くなる。	
	乗用車販売店（従業員）	・年初に新型車が出るような予定もないため、景気が良くなる見込みがない。	
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・景気回復に向けた打開策もないため、今後も変わらない。最近では経営のスリム化、リストラもやむを得ないという他社の判断がよく理解できるようになってきている。	
	高級レストラン（スタッフ）	・外国人観光客が訪れる店舗は繁盛しているようだが、国内客の消費動向が思わしくないため、今後の景気はやや悪くなる。	
	観光型ホテル（役員）	・先行予約状況を見ると、単価の下落が続いていることから、今後の売上減少が懸念される。	
	旅行代理店（従業員）	・当地域では冬場の旅行需要の落ち込みが見込まれるため、今後についてはやや悪くなる。	
	タクシー運転手	・人口の減少傾向は変わらないため、今後も景気は回復しないまま推移する。	
	タクシー運転手	・当業界は冬場の業績が大変厳しくなるのが例年の傾向であり、現在の状況から景気が上向くような変化は起きないとみられる。そのため、今後については売上が減少することになる。	
	観光名所（従業員）	・これまでのプラス要因であった北海道新幹線の開業効果や海外航空便開設のスポット効果が落ち着き、観光入込客数の減少、団体観光客の小規模化といった動きがみられるようになっており、景気が下向きに転じていることから、今後についてはやや悪くなる。	
	美容室（経営者）	・物価が上昇している状況下にあって、所得が増えてこない現状があるため、客が支出を控えている雰囲気がある。特に年金生活者は支出を控える傾向が強くなってきていることから、今後についてはやや悪くなる。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・今後については、厳冬期に入ることに加えて、天候の悪化が見込まれることから、景気がやや悪くなる。	
	住宅販売会社（経営者）	・分譲マンションの価格が上昇している一方で、購入を考えている客の所得はそれほど上昇していない。また、今後の住宅ローン金利がどのような方向性になるかが不確かである。そのため、今後、マンションを購入できない客が増えてくることが懸念される。	
	×	商店街（代表者）	・今後については、オフシーズンとなるため、景気は悪くなる。
	×	コンビニ（オーナー）	・周辺の工事業者による利用が減ったことから、今後についてはやや悪くなる。外国人観光客による利用も年々落ちている。
	×	高級レストラン（スタッフ）	・元々、当地の景気はあまり良くなく、周りの地域の景気が比較的良かったことで、当地にもプラスの影響が出ていたが、ここに来て他地域の景気に陰りがみられる。実際に人の移動も減少してきているため、今後については悪くなる。
	×	タクシー運転手	・年末商戦に期待したいところだが、冬季ボーナスが増えるような話も聞かないため、今後の景気は悪くなる。
企業動向関連		輸送業（営業担当）	・今シーズンの農産品が出そろい、これから販売量が増えてくることになるため、北海道から本州方面への物流もトレーラー、鉄道コンテナ共に増加することになる。

(北海道)	通信業（営業担当）	・来期の予算や計画について、売上増加や単価上昇を見込む企業が増えていることから、今後の景況感はやや右肩上がりで推移する。
	食品品製造業（従業員）	・今年に入ってから発注量が減少していた取引先において、発注量が増加傾向に転じてきているため、今後も景気の良い状況が続く。
	家具製造業（経営者）	・首都圏から遠い地域にある中小零細企業において、依然として景気が上向くような動向はみられない。
	建設業（従業員）	・建設業の年度内受注はすでに飽和状態にあることから、当面は均衡状態で推移する。
	建設業（役員）	・今年度内の工事量はすでに確定している。次年度繰越案件については、民間建築工事の発注が好調であるものの、現場人員数の制約から見送り、辞退が避けられないため、許容範囲内ではあるが、受注頭打ちの状況が続く。
	輸送業（支店長）	・今期も冬場の物流量が落ち込む見込みではあるが、余計なコストが増えない分、利益面では現行並みで推移することになる。
	金融業（従業員）	・株価上昇により消費マインドの改善がみられる一方で、冬場の需要期を迎えた灯油の価格上昇が消費マインドの足かせとなり、底堅く推移している個人消費を下押しすることが懸念される。ただし、全体的には道内景気はこれまでと変わらない水準で推移する。
	司法書士	・季節要因や地域性などを考慮すると、今後についてはこれまでとあまり変わらない状況が続く。
	司法書士	・冬を迎えて灯油やガソリンの値上がりが顕著なことから、今後、景気が良くなる要素が見当たらない。
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・年度途中ということもあるが、特に受注量や売上に変化が生じそうにないため、景気は変わらないまま推移する。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・受注量が前期を上回る一方で、伸びが鈍化してきている状況が今後も続く。
	食品品製造業（従業員）	・今後も売上に変化はなさそうだが、原油価格の高騰により、燃料、運賃、原料などの様々な経費が上昇しており、収益を圧迫しているため、今後の景気はやや悪くなる。
	建設業（経営者）	・工事の稼働が厳冬期を迎えて落ち込むと同時に、生産性、採算性も悪くなる。公共工事の新規受注、契約は3月以降となり、民間工事はもう少し遅く、融雪後になるため、今後の景気はやや悪くなる。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・季節要因もあり、冬季は景気が下向くことになる。原油価格上昇に伴うコスト増の影響も懸念される。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・閑散期に入ることでの動きが悪くなることに加えて、データ改ざん問題などの影響が徐々に広がり始めており、例年どおりの動向にならないことが懸念される。
x	-	-
雇用 関連  (北海道)	人材派遣会社（社員）	・年末年始商戦における売上の拡大を目指し、求人、派遣依頼が増加傾向にあるなど、企業活動が活発化していることから、今後についてはやや良くなる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・当地域の基幹産業である農業粗生産高が良かったこと、大型の公共施設がしゅん工に向かって進んでいることから、今後の景気が上向くことを期待している。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・基幹産業である農業の産出額が過去最高になるという予測があるなか、農業関係者の消費性向が活発になることが見込まれるため、今後の景気はやや良くなる。
	学校〔大学〕（就職担当）	・恒例の冬季イベントなど、目玉行事が控えていることから、2月までは外国人観光客の入込が見込める。そのため、今後の景気は緩やかではあっても若干上向きで推移する。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人件数が頭打ちになっており、今後しばらくは現状のままで推移する。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・人材不足を原因とした募集が多いため、今後2～3か月で景気は変わらない。ただし、今後も個人消費が伸びないようであれば、数年かけて緩やかに景気が後退するのではないかと懸念している。
	職業安定所（職員）	・月間有効求職者数が前年を下回り、月間有効求人数が前年を上回る傾向が今後も続く。
	職業安定所（職員）	・当管内において、製造業や介護分野で事業停止に伴う離職者が多数発生したものの、それぞれの業種で募集活動が活発なことから、労働市場への影響は少ないものとみられる。

	職業安定所（職員）	・雇用情勢は高水準で推移しているが、漁業不振の影響で食料品製造業の動向が懸念される。
	職業安定所（職員）	・9月の有効求人倍率は1年1か月ぶりに前年を上回ったが、10月の有効求人倍率は前年と同率となったことから、今後の動向を注視する必要がある。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・アルバイト、パートの求人減少に引きずられるように、正社員系の求人も漸減傾向をみせ始めていることから、今後についてはやや悪くなる。
x	-	-